

平成23年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		平和事業の推進		款	3	項	1	目	1	事業	13	整理番号	67						
担当部課名		区民生活部管理課		係名	庶務係		連絡先電話番号		3755		昨年度整理番号	63							
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進		予算事業区分								既定事業							
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	1	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	4	政策番号	5	施策番号	3	事業コード	6	<input type="checkbox"/>	行革計画事業	<input type="checkbox"/>	主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		区民、関係団体、民間団体		根拠法令等		(1) 杉並区平和都市宣言 (2)											
	事業の目的・目標	(対象をどのような状態にしたいのか)		○区民一人ひとりが、平和都市宣言の趣旨を理解し、戦争の悲惨さや平和の尊さに対する認識を深め、世界の恒久平和に寄与する。		活動指標名(式)		(1) 平和のつどい開催日数 (2) 後援名義等使用件数											
	活動内容	(事務事業の内容、やり方、手順)		○平和のつどいの実施 ○平和のためのポスター絵画コンクールの実施 ○北朝鮮拉致被害者家族支援 ○平和への意識の啓発を図る		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標											
成果指標名(1)		平和のつどいへの参加者数		算定式・指標の説明等		成果指標名(2)		平和のためのポスター絵画コンクール応募者数											
算定式・指標の説明等																			
区分		単位	20年度		21年度		22年度		23年度		計画(目標値)に対する22年度の達成率 %								
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	実績										
指標	活動指標(1)	①	日	16	20	8	20	6	20	30%									
	活動指標(2)	②	件	11	10	14	15	12	12	80%									
	成果指標(1)	③	人	670	700	550	700	610	700	87%									
	成果指標(2)	④	人	603	700	515	700	803	700	115%									
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	2,113	5,194	4,075	3,238	1,578	3,256	22年度予算執行率%		48.7							
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項									
	(内)委託費	⑦	千円	239	565	457	270	235	326										
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.80 0.00	0.80 0.00	1.05 0.00	0.65 0.00	0.65 0.00	0.65 0.00										
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	7,240	7,103	9,323	5,798	5,798					5,798					
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	0	0					0					
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	9,353	12,297	13,398	9,036	7,376	9,054										
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	584,563	614,850	1,674,750	451,800	1,229,333	452,700										
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0					0					
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0					0					
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0					0					
		その他の補助金等	⑯	千円	0	0	0	0	0					0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰	千円	0	0	0	0	0	0										
差引:一般財源(⑪-⑰)		⑱	千円	9,353	12,297	13,398	9,036	7,376	9,054										
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 67

22年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		平和のつどい(8月・3月)	2	回	219
		北朝鮮拉致被害者家族支援			6
		平和のためのポスター絵画コンクール	1	回	270
		平和事業の連携啓発			
		その他 (平和カレンダー ほか)			1,083
	(2) 事業実績	「平和のつどい」では区役所で「核兵器・戦争のない平和な世界を願って」と題したパネル展(8月)と平和コンサート(3月)を開催しました。平和のためのポスター絵画コンクールは瑞草区との共同開催で、両区で展示会を行うことができました。「北朝鮮拉致被害者家族支援」では、パネル展開催にあたりコストに配慮した展示を行いました。			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか <input type="text" value="一部実現している"/>	(2) 協働等の相手 <input type="text" value="NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)"/>	
	(3) 協働等の形態 <input type="text" value="協働[事業協力]"/>	(4) 協働等の今後のあり方 <input type="text" value="推進"/>	

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	戦争体験者の高齢化が進んでいるため、戦争の惨禍を風化させずに次の世代に語り継ぐ必要があります。また、核兵器削減に向けた世界情勢が急速に変化しています。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	原水禁署名運動発祥の地として、平和都市宣言自治体として、平和の尊さの啓発に取り組んでいってほしい。
	今後の予測	・世界的に核兵器削減の動きが活発化する一方、核保有国と非保有国との間で核廃絶に対する考え方の相違が広がっていくと予測されます。
	評価と課題	平成22年度も引き続き「北朝鮮拉致被害者支援」を実施し、高井戸区民センターのパネル展も好評を得ました。現在、核軍縮や核の拡散防止の世界的動きが進んでいる中で、本年度もこうした動きを軸として事業を展開していきます。また、戦争体験者が年々減少している中で、杉並区の平和事業の礎である「平和都市宣言」にあるとおり「平和ゆえの幸せを希求し、次の世代に伝える」ことを念頭に、広く意識を醸成する点から「協働」による事業展開を検討していきます。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ 廃 止
		II 事業の改善	○ 事業内容の変更 ○ 実施方法の変更
	核軍縮や核の拡散防止の世界的動きが進んでいる中で、こうした動きを軸として、22年度に引き続き核や戦争の悲惨さを「次の世代に伝えていく」ことを念頭に、幅広い世代の関心を高める事業、とりわけ若年層の参加を促進できる展開を視野に入れ、取り組んでいきます。例えば、小中学校にゲストティーチャーを派遣して講演等をお願いし、より身近なところから平和の大切さを考えるきっかけとしていく事業を実施します。常に、平和に関する世界情勢を敏感に捉えて、事業に反映させます。		

特記事項	
------	--

平成23年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		国際・国内交流の推進		款	3	項	1	目	2	事業	3	整理番号	72			
担当部課名		区民生活部文化・交流課		係名	交流推進担当			連絡先電話番号	1697		昨年度整理番号	68				
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進		予算事業区分					既定事業							
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	元	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業	分野	4	政策番号	5	施策番号	3	事業コード	5	<input type="checkbox"/> 行革計画事業	<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input checked="" type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等		(1) 国内友好都市(名寄市・東吾妻町)との交流協定 (2) 国外友好都市(ウイロビー市・瑞草区)との交流協定							
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○文化・スポーツ・経済等、多様な分野での交流を行う。 ○市民レベルの交流を行い、友好親善を深める。 ○多文化との共生の実現に向け、相互理解を深める。		活動指標名(式)		(1) 国際交流事業参加者数 (2) 国内交流事業参加者数										
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○交流都市(北海道名寄市、群馬県東吾妻町、ウイロビー市(オーストラリア)、ソウル市瑞草区(大韓民国)等)の代表団の受入、区代表団の派遣 ○交流都市が区民を対象に行う生産物即売等各種事業の支援 ○他課・他団体が行う交流事業への支援		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 友好都市訪問者数・来訪者数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 国際・国内友好都市との交流事業参加者数 算定式・指標の説明等										
区分		単位	20年度		21年度		22年度		23年度		計画(目標値)に対する22年度の達成率 %					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	実績							
指標	活動指標(1)	①	人	3,140	3,500	3,255	3,300	2,844	3,300	86.2						
	活動指標(2)	②	人	1,858	2,200	2,357	2,200	1,943	2,200	88.3						
	成果指標(1)	③	人	951	900	961	1,000	1,099	1,000	109.9						
	成果指標(2)	④	人	1,805	1,800	1,676	2,000	2,197	2,000	109.9						
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	8,163	12,399	7,437	6,692	4,248	9,230	22年度予算執行率% 63.5						
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費	⑦	千円	2,095	5,101	2,524	1,055	659	2,821	22年度は「まるごと保養地協定」に係わる事務が区民生活部管理課から文化・交流課へ移管されましたが、予算計上は「保養のための宿泊機会の提供」のため、事務事業評価は区民生活部管理課で行います。なお、職員数は文化・交流課の「国際・国内交流の推進」の中に入れます。						
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	2.35 1.00	2.18 1.00	2.28 1.00	2.18 1.00	3.22 1.00	2.98 1.00							
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	21,268	19,356	20,244	19,446	28,722			26,582				
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	2,800	2,793	2,793	2,950	2,950			2,950				
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	32,231	34,548	30,474	29,088	35,920	38,762							
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	10,265	9,871	9,362	8,815	12,630	11,746							
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0			0				
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0				
		都からの補助金等	⑮	千円	0	0	0	0	0			0				
		その他の補助金等	⑯	千円	0	0	0	0	0			0				
特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0	0							
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	32,231	34,548	30,474	29,088	35,920	38,762							
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 72

22年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1) 主な取組み	友好都市等親善訪問団受入れ				2,338
	国内交流自治体訪問	12	回		525
	瑞草区友好アクション・プログラム				112
	その他 ()				1,273
(2) 事業実績	<p>国内交流では、「都市と農村の共生」を民間レベルで推進するため、協働すぎなみのアンテナショップ「ふるさと交流市場」を活用した新米コシヒカリの学校給食利用や出前授業を行いました。東吾妻町との交流20周年を記念して東吾妻町において記念式典を開催し、今後の更なる交流推進を確認するため、共同アピール文の調印を行いました。</p> <p>国際交流では、ウィロビー市との交流20周年を記念し、ウィロビー市から4名の代表団を招き、区議会において記念式典を行うとともに、今後の一層の親善を宣言する合意書の調印を行いました。</p>				

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 社団法人・財団法人等公益団体((3)へ)
	(3) 協働等の形態 協働[補助・助成]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	国内交流は、平成元年に群馬県東吾妻町(旧吾妻町)、北海道名寄市(旧風連町)を始め、現在は、新潟県小千谷市と福島県南相馬市、福島県北塩原村、東京都青梅市と交流を行っています。従来の儀礼的な交流から物産展やバスハイクなど経済的な交流を軸とした民々の交流に力を入れています。また、東日本大震災被災地の南相馬市(避難者)への支援や民間からの支援申し出の橋渡しを行っています。国際交流は、オーストラリア・ウィロビー市と大韓民国ソウル特別市瑞草区との交流を行っています、それぞれの交流都市との周年事業も実施しています。
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<ul style="list-style-type: none"> 交流都市が区役所で行っている野菜などの物産販売は、毎回完売に近い状況が多いことから、交流都市農産物への区民の人気の高さが推察されます。 都会では難しい自然体験や保養地などの観光分野での交流を進めて欲しいとの要望があります。
	今後の予測	交流都市からは、大消費地である杉並区での農産物や特産品の販売拡大が益々期待されると予測されます。また、従来からの交流都市との交流事業の推進・充実に加え、震災被災地の南相馬市や原発の放射能漏れによる風評被害で苦境に立たされている北塩原村に対して、更なる支援に取り組む必要性が高まると予測されます。
評価と課題	<p>名寄市による秋の物産販売は、阿佐谷ジャズストリートに併せ実施するなど新たな取組を行いました。今後も、交流都市から期待されている物産品の販路拡大に取り組むことで、交流都市の地域、経済活性化などに協力していきます。</p> <p>物産展と並行し写真展示も行うことで、交流都市の観光や自然のPRに努めました。これにより交流都市の周知が図られ、関心を持つ区民が増えています。一方で、交流都市において区に関した周知が少ないことから、杉並区のPRを図ることが課題となっています。</p>	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ 廃 止
		II 事業の改善	○ 事業内容の変更 ● 実施方法の変更
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の交流都市や地域との多様な交流事業を通じて、相互理解の促進と友好の輪を広げていきます。 国内交流については、従来からの交流都市との交流事業の推進・充実に加え、低迷する地方経済の活性化に繋がるような経済的な交流を活発に行います。具体的には、区役所での物産販売の拡大や民間も含めた新しい販売ルートの開拓に取り組めます。 震災で被災地となり原発問題を抱えているため、復旧・復興が遅れている南相馬市への支援を積極的に行っていきます。 交流協会については、平成23年9月を目途に見直し検討を行い、今後のあり方について報告を行います。 			

特記事項	<p>23年度から福島県北塩原村との「まるごと保養地協定」に係わる予算が、「国内交流の推進」予算に計上されるようになりました。</p> <p>23年度当初から東日本大震災による被災地の南相馬市への支援が重要な課題となっています。</p>
------	--

平成23年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		杉並区交流協会助成		款	3	項	1	目	2	事業	4	整理番号	73
担当部課名		区民生活部文化・交流課		係名	交流推進担当			連絡先電話番号	1697		昨年度整理番号	69	
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進		予算事業区分								既定事業	
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野			政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業		
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 区民、交流団体			根拠法令等 (1) 杉並区交流協会補助金交付要綱 (2)								
	事業の目的・目標	(対象をどのような状態にしたいのか) ○国際交流の推進による多文化共生が構築されています。 ○国内交流において市民レベルの草の根交流が活発に行われています。 ○交流協会が交流事業のコーディネーターとして十分な機能、役割を担っています。			活動指標名(式) (1) ボランティア登録数 (2) 事業回数								
	活動内容	(事務事業の内容、やり方、手順) ○杉並区交流協会に対し、交流事業が円滑に行えるように補助金を交付する。			成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 協会会員数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 事業参加者 算定式・指標の説明等								
区分		単位	20年度		21年度		22年度			23年度	計画(目標値)に対する22年度の達成率 %		
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画					
指標	活動指標(1)	① 人	365	400	448	500	521	550	104.2				
	活動指標(2)	② 回	112	113	105	110	95	100	86.4				
	成果指標(1)	③ 人	936	950	580	600	566	600	94.3				
	成果指標(2)	④ 人	1,235	1,400	1,295	1,300	1,331	1,300	102.4				
総事業費・コスト把握	事業費	⑤ 千円	25,936	33,375	26,267	30,802	25,622	27,152	22年度予算執行率% 83.2				
	(内) 投資的経費等	⑥ 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項				
	(内) 委託費	⑦ 千円	0	0	0	0	0	0					
	職員数(常勤 非常勤)	⑧ 人	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00				
	人件費	(内) 常勤職員分(超勤分含)	⑨ 千円	181	178	178	178	178	178				
		(内) 非常勤職員分	⑩ 千円	0	0	0	0	0	0				
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪ 千円	26,117	33,553	26,445	30,980	25,800	27,330					
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫ 円	71,553	83,883	59,029	61,960	49,520	49,691					
	財源	受益者負担分	⑬ 千円	0	0	0	0	0	0				
		国からの補助金等	⑭ 千円	0	0	0	0	0	0				
都からの補助金等		⑮ 千円	0	0	0	0	0	0					
その他の補助金等		⑯ 千円	0	0	0	0	0	0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰ 千円	0	0	0	0	0	0					
差引: 一般財源(⑪-⑰)		⑱ 千円	26,117	33,553	26,445	30,980	25,800	27,330					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑳ %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 73

22年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		交流協会助成			
		その他 ()			0
	(2) 事業実績	国内の交流都市との市民レベルの交流を図りました。高円寺阿波おどり大会へのおどり団の受入れ、名寄市や東吾妻町の祭りの際のおどり団の派遣のほか、東吾妻町を会場として、ウォーキングツアーを行いました。また、区在住外国人支援として、ウェルカムパーティー、日本文化を知ろう、イヤーエンドパーティー、ジャパンディなどの事業を実施し、日本の文化と生活習慣の体験や日本人との交流を行いました。 外国人参加者:ウェルカムパーティ52人、日本文化を知ろう28人、イヤーエンド・パーティー40人、ジャパンディ54人			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 社団法人・財団法人等公益団体((3)へ)	
	(3) 協働等の形態 協働[補助・助成]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続	

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	平成3年に設立され、同5年に国際交流協会として財団化、12年には財団を廃止し、文化振興協会と統合という変遷を経て、18年に現在の組織となっています。現在は、従来の行政主導の交流から民々交流へ転換していくうえで調整を担う役目があります。また、国際化が進展する中、在住外国人支援事業を実施する中心となる組織となっています。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	区における在住外国人を対象とした施策が乏しい中、協会が実施している様々な在住外国人支援事業に対し、評価と期待する声があります。在住外国人等からは、名称が他区のような国際交流協会ではないので、活動内容が分かりにくいとの意見があります。
	今後の予測	現在、在住外国人の減少が続いていますが、これは東日本大震災後の原発問題が一因で短期的な傾向だと考えられます。長期的には、1万人以上の外国人が在住することに変化はなく、在住外国人向けの多様な事業を行っていく必要があると思われます。
	評価と課題	多様な事業の実施により、在住外国人支援や交流事業の推進に寄与していますが、社会状況の変化に合わせた事業メニューの見直しが必要となっています。また、行政主導の交流から市民レベルの交流の活発化のために、交流協会のコーディネーターとしての、機能充実が求められています。区としては、交流協会と連携しながら、今後の方向性等について、引き続き協議していきます。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	○ 拡 充	● 現状維持	○ 縮 小	○ 廃 止
		II 事業の改善	○ 事業内容の変更	● 実施方法の変更		
	今後の交流協会のあり方については、新たな基本構想の検討における国際交流・多文化共生に関する議論と併行して、文化・交流課が見直しの検討を行っており(平成23年9月を目途に検討報告予定)、併行して交流協会理事会においても協会の今後のあり方を検討しています。					

特記事項	東日本大震災被災地支援に区と共に取り組むことが求められています。
------	----------------------------------

平成23年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 296

22年度の事業実施状況	(1) 主な取組み	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		杉並区・名寄市風連町子ども交流会(夏季)	2	回	2,746
	杉並区・東吾妻町子ども交流会	1	回	522	
			回		
	その他 ()			0	
	(2) 事業実績	1 名寄市と夏季小学生交流(7月8月にそれぞれの自治体で3泊4日。) 2 東吾妻町と夏季小学生交流(8月に東吾妻町で2泊3日。)			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)	
	(3) 協働等の形態 協働[事業協力]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続	

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	名寄市交流、東吾妻町交流とも子ども同士が生活を共にすることで、お互いの文化や生活を知るという意味で、自治体交流の一端を担ってきました。一時期応募者が少ない時期もありましたが、ここ数年、夏季の小学生交流については応募者数は安定してきています。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	参加者のアンケートではどの交流会とも、概ね「よい経験になった」「交流事業は貴重な体験の場」と、前向きな事業評価と事業継続の期待が寄せられています。
	今後の予測	
	評価と課題	名寄市交流、東吾妻町交流ともに応募状況はここ数年右肩上がり毎年抽選を実施しています。この事業への需要は高く、1度体験した児童が家族とともに再び名寄市や東吾妻町へ旅行するといったケースも聞かれ交流の思わぬ成果が現れています。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業の方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> 廃 止
		II 事業の改善	<input type="radio"/> 事業内容の変更 <input type="radio"/> 実施方法の変更
	昨年度、名寄市交流の中学生冬バージョンは廃止となり、小学生と隔年で夏の交流事業を実施するように見直しを行ったため、当分の間、この方向で実施していきます。		

特記事項	
------	--